

環境に係る情報協議会

国営緊急農地再編整備事業 岩見沢大願地区

1. 環境に対する考え方

《農村環境の現状と課題》（「岩見沢市田園環境整備マスタープラン」より）

【現状】

岩見沢市は、東部の夕張山地に連なる山地から、西部の石狩川左岸に広がる低平地にいたるまで、多様な自然に恵まれているため、そこに生息する動物や植物の種類も豊富である。また、西部の低地帯には多くの湖沼が見られ、魚類をはじめ水生植物も豊かである。

【課題】

かつてはいたるところに見られた魚類が河川整備等により減少しており、今後は環境に配慮した水辺環境の整備が重要である。

《環境保全の基本的考え方》（「岩見沢市田園環境整備マスタープラン」より）

山地から湖沼に至る恵まれた自然環境とそこに生息する多様な生物を総合的に保全するため、自然環境に配慮した整備を行う。

生産性の向上を図り、地域農業を担う農業者の確保、環境にやさしい農業を推進するとともに、美しい景観を保全するため、環境に配慮した整備を行う。

2. 環境配慮方針

《基本方針》

農業基盤の開発の歴史とその後の農業者の営為の継続により、今日における地域の豊かな農村環境、農村景観が形成されてきた。その特徴ある環境を保全する。

《取組内容》

(1) 生態系への配慮

- ・ 工事中は、下流河川や排水路に生息する魚類等に配慮し、濁水処理施設を設置し、濁水流出防止に努める。
- ・ 用水路の施工に際して工事区域内に希少な植物の生育が確認された場合、工事区域外の生育に適した場所に移植する。

(2) 景観への配慮

- ・ 防風林を横断する用水路工事箇所については、簡易土留工法を採用し掘削幅を縮小するとともに、掘削による発生土を防風林帯区域の外に置く縦断施工により、防風林の伐採面積を最小化し、農村景観を保全する。